



ひがし風



「1学期のまとめ」

校長 伊藤 誠

うっとおしい梅雨の合間をぬってプールから聞こえてくるけやきっ子の歓声は、湿りがちな気持ちを明るく元気にしてくれます。早いものでもう7月、夏の訪れとともに、1学期のまとめの時期となりました。

まとめをする上で大切なことは、自分自身を振り返り、成長と課題を明らかにすること、できるようになったことや十分でなかったことなどを知ることです。1学期の最初に立てた目標が、どれだけ達成できたでしょうか。できたところは、それをさらに伸ばし、十分でなかったところはもう一度挑戦し、1学期の間に習得しておく内容をしっかりと身に付けさせていくことに取り組んでまいります。

家庭での「お手伝い」を

夏休みまであと3週間、例年長期休業中に「お手伝い」が課題として出されているかと思いますが、今、お子さんはお家で決まったお手伝いをしているでしょうか。先日、家庭科の学習が始まった5年生に聞いてみたところ、ほとんどの児童がお手伝いをしていて、主な内容は以下の通りでした。



- ・食器後片付け、洗い 26人
- ・お風呂掃除 20人
- ・洗濯物をしまう、たたむ 19人
- ・料理の手伝い(米とぎ、一品作る) 15人
- ・食器の配膳、テーブル拭き 14人
- ・ごみ捨て 11人
- ・弟や妹の世話 9人
- ・ポストの確認 6人
- ・部屋の掃除 6人
- ・植物の世話(水やり) 5人
- ・おつかい 5人
- ・洗濯物を干す 4人
- ・マッサージ 3人
- ・動物の世話(散歩) 3人

「お手伝い」の効果として、「自立心」「責任感」「自分で考える力」が身に付いたり、「自己肯定感」が育まれたり、親子のコミュニケーション・信頼関係づくりに繋がることなどがいわれています。学習面では、家庭科で「家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、家族の一員として家庭の仕事を分担してできるようにするとともに、主体的に家族に協力すること」を学びます。

また、これからの大学入試に向けて、小中高生が準備すべきことを特集している記事の中で、安浪京子先生（中学受験専門カウンセラー）は、次のようにも述べていました。

「学力の3要素」のうち「主体性・多様性・協働性」の育成について、（小学生に）家庭でできることは三つありますが、その一つは**お手伝い**です。社会の最小単位である家族の一員だと実感できます。特にお勧めは料理です。どんな食材を買い、どんな器具でどう料理するか、という流れには、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）すべてが詰まっています。

発達段階に応じて、できる内容は変わってくるかと思いますが、家庭で話し合い、家族の一員として更に「お手伝い」が積極的にできるけやきっ子になってほしいと願っています。